

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

コロナモヤモヤ、大統領選挙もモヤモヤ (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 田中 春菜

今週のドル円予想レンジ **102.00 ~ 104.00**

りそなWEEKLY COLUMN

日本人が14年連続受賞しているイグノーベル賞とは (P3)

総合資金部 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 中里 信介

- 人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究へ送られるイグノーベル賞
- 独特でユーモアのある授賞式
- 研究への取り組み姿勢は、マーケット分析とも精通する

2020/11/9

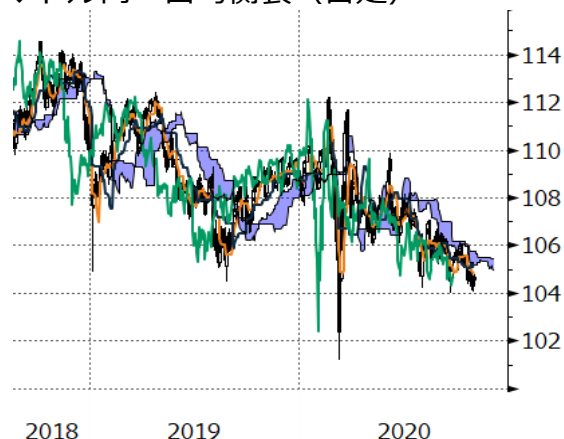
りそな外為レポート

コロナモヤモヤ、大統領選挙もモヤモヤ

今週のドル円予想レンジ **102.00 ~ 104.00**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表 (日足)



◆為替相場のすすめ

先週は米大統領選挙の行方を睨みながら、ドル円は小幅に上下に振れた。開票が進む中でバイデン氏と上下両院の民主党優勢を織り込んだ際は、米金利の上昇と共に、ドル円は一時105円35銭近辺まで上昇するも、接戦州でのトランプ氏の健闘が報じられるとドル円は緩やかに反落。また、5日に行われた米FOMC後の記者会見において、パウエル議長が「経済の下振れリスクが拡大していることを懸念」と発言した事も、追加緩和を連想させるハト派的発言と材料視され、週後半にかけてドル円は103円18銭まで下落する局面があった。今週も引き続きドル円は軟調に推移すると予想。週末には選挙人の過半数を確保したバイデン氏の勝利がほぼ確実となり、同氏は、勝利宣言を行ったものの、現職のトランプ大統領は敗北を認めず、改めて法廷で争う姿勢を示している。大統領選挙も大方フィナーレを迎え、マーケットの関心は少しずつ新型コロナの動向に移りつつある中、本格的な法廷闘争はマーケットにプラスに働くとは到底考えにくい。今週はリスクオフムードの円買い(円高)にも注意したい。(カスタマーディーラー 田中春菜)

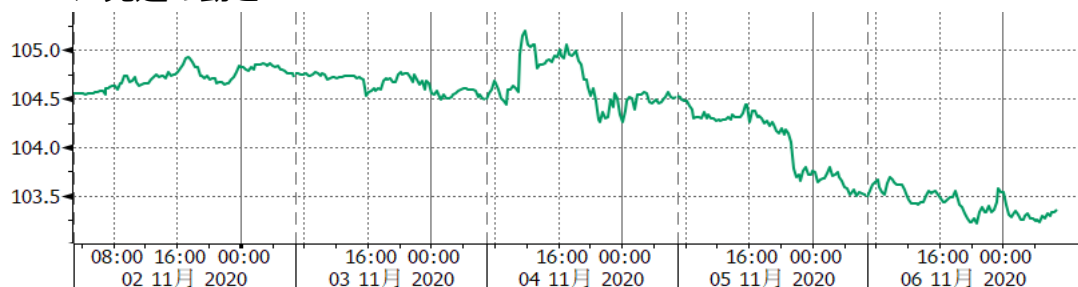
◆今週の日程

9日(月) 日 日銀「主な意見」(10/28, 29)	12日(木) 日 9月機械受注
9日(月) 米 3年国債入札	12日(木) 米 10月CPI
10日(火) 日 10月景気ウォッチャー調査	12日(木) 米 30年国債入札
10日(火) 中 10月CPI・PPI	13日(金) 米 10月PPI
10日(火) 米 10年国債入札	13日(金) 米 11月シガン大消費者信頼感指数

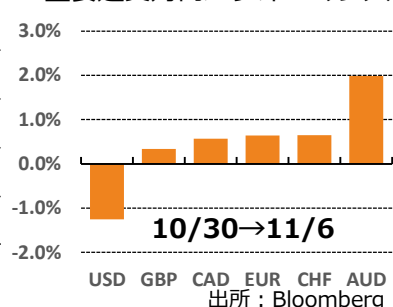
◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 11月6日(金) 103.35円 VS 11月13日(金)

東京											大阪			埼玉			
井口	中根	石川	湊	小新	鳥井	田中	中里	伊藤	村永	小林	鈴木	武富	上野	小林	津田	石井	佐藤
↓	↑	休	↑	休	↓	↓	↑	↑	休	↓	↓	休	↓	↑	↑	↓	↓

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/11/9

りそな WEEKLY COLUMN

日本人が14年連続受賞しているイグノーベル賞とは

- 人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究へ送られるイグノーベル賞
- 独特でユーモアのある授賞式
- 研究への取り組み姿勢は、マーケット分析とも精通する

総合資金部 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 中里 信介

➤ はじめに

ヨーロッパでは新型コロナウイルスの再拡大が進み、2回目のロックダウンに入るなど、終わりの見えない自粛ムードが続いています。そんな、自粛ムードと戦うためにも、今回の本コラムでは少し馬鹿げた、それでいて真面目な研究について話をしていきたいと思います。

➤ 声の出し方の不思議

突然ですが、人間がどのように声を出しているかご存知でしょうか？人間は多くの哺乳類や鳥類と同じように、声帯の振動により発生する音を声道で共鳴させて発声しています。一方で、カエルなどの両生類にはこの共鳴の仕組みがなく、器官をたたくようにして発声しています。では、爬虫類はどうでしょうか？これまで、ワニなどの爬虫類がどのようにして発声しているのかは知られていませんでした。

➤ ワニの声の出し方の研究

これを研究するため、吸引すると声が高く変わる現象である“ドナルドダック現象”を引き起こす“ヘリウム”が用いられました。ヘリウムは非常に軽い気体であり、軽い気体のなかでは共鳴する音の周波数が高くなるためこの現象が引き起こされます。パーティーグッズとしてもテレビなどで度々使われているので、その声音変化の様相は想像できるのではないのでしょうか？ヘリウムガスが満ちた空間では、“人間の息=共鳴した音”を使った管楽器は高音になり、“モノを叩いて出した音=共鳴していない音”を使った打楽器は音が変わらないという状態になります。ワニの発声メカニズムが人間と同じように音を共鳴させているのか、それともカエルと同じように器官をたたいて音を出しているのかどうかを調べるために、このヘリウムガスの性質が利用されました。バラエティ番組ではヘリウムガスによって変わった声を面白可笑しくしていますが、ワニの生態を調べるための研究ではワニにどのようにヘリウムガスを吸引させるか、その後の鳴き声がどのように変化したかが研究者たちによって真面目に検証されています。大学の偉い教授たちが国際的に協力して、ヘリウムガスを吸ったワニを観察している姿を想像すると、なんとも微笑ましい気持ちになりませんか？



➤ イグノーベル賞とは？

上記の研究は京都大学の西村教授が参加する国際的な研究グループが行った研究で、2020年のイグノーベル賞・「音響賞」を受賞しています。イグノーベル賞は1991年にアメリカの化学雑誌により創設されたノーベル賞のパロディであり、「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究」に贈られる賞です。他に、今年同賞を受賞したものの一部を以下に挙げます。

2020/11/9

りそな WEEKLY COLUMN

➤ 過去受賞事例

「平和賞」：緊張関係が続くインドとパキスタンの外交官が深夜に相手の家の呼び鈴をならし（いわゆる「ピンポンダッシュ」）、いたずら電話をかけているという報道に対して両国に贈られた。

「医学教育賞」：新型コロナウイルスの世界的流行から政治家が人の命に直ちに与える効果は医師や科学者よりも大きいとして、米・トランプ大統領や露・プーチン大統領など世界の指導者9人に贈られた。

どちらも皮肉とユーモアを交えており、その設立理念がよくわかる事柄への授与になります。日本人が受賞するのは、今年で14年連続になり、英国とともに同賞の常連国の一つです。過去には、“たまごっち”、“パウリングル”、“カラオケ”などの商品のほか、“バナナの皮がどうして滑るのか”といった研究内容で日本人が受賞しています。

➤ 独特でユーモアな授賞式

例年、授賞式は9月～10月ごろに開催されていますが、今年はコロナ禍のためオンライン開催になりました。平時は、ハーバード大サンダースシアターで行われていますが、その授賞式にも独特でユーモアな文化があります。観客はただ受賞者のスピーチを聞いているだけではなく、最初に紙飛行機を作って投げ続ける慣わしがあり、その紙飛行機の片づけは2005年に本家のノーベル物理学賞を受賞したハーバード大学教授のロイ・グラウバー氏が務めます。また、受賞者スピーチのタイムキーパーは8歳の少女が務め、1分を過ぎると「もうやめて、退屈なの」と連呼される慣わしもあります（8歳少女からの進言が最も精神的にダメージを与えるという研究結果に基づく）。

イグノーベル賞には、このようにインパクトのある方法をとることによって、日の当たりにくい分野の研究であっても注目させ、科学の良さを再認識させるという社会的意義まであると言えるでしょう。

➤ マーケット分析と似ている？

ここまで、長々とイグノーベル賞について語ってきましたが、マーケットの分析も同じような側面があると考えています。マーケットでは、株や為替相場などの「モノ」の値動きを予想する際に、一見、関係のなさそうな「モノ」の値動きを分析して相関を導き出すケースがあります。ディーラーは研究者と同じように、たとえ周りの人に滑稽だと思われても、突き詰めていくことができる人に向いている職なのかもしれません。

ちなみに、冒頭で説明したワニの実験では、ヘリウムによって見事に声が変わったようです。ネット上には生音声が転がっているので、気になる方はぜひ調べてみてください！（私には違いがわからなかったですけど・・・）

